

医薬協ニュース

367号

2002年(平成14年)2月

●目次●

- ・トピックス 薬価改定の動向 他 1
- ・平成14年1月度医薬協理事会報告 2
- ・リレー随想 (堀川 丈夫)
 初 詣 3
- ・活動案内 5

■編集

医薬工業協議会
総務委員会広報部会

■発行

医薬工業協議会

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-3-10

日本橋銀三ビル

TEL03-3279-1890 FAX03-3241-2978



薬価改定の動向 他

中央社会保険医療協議会は、1月18日の総会で診療報酬と薬価改定について、診療報酬は1.3%（医科・歯科・調剤各科1.3%）、薬価改定等は1.4%、うち薬価は1.3%（薬価ベース6.3%＝市場実勢価による改定・調整幅2%による4.6%、先発品の薬価改定・平均5%による1.7%）、材料価格改定は0.1%とすることを改めて報告した。

また、先発品の薬価改定については、対象範囲について「後発品が収載されている医薬品とする」とし、その際の除外品目としては①昭和42年10月1日前に承認された医薬品 ②日本薬局方収載医薬品 ③生物学的製剤（血液製剤を含む）④漢方製剤・生薬 ⑤希少疾病用医薬品であって希少疾病以外の疾病に対する効能を有しないもの ⑥今回の改定において不採算再算定の対象となる医薬品 ⑦後発品の薬価又は最低薬価を下回る医薬品（一定割合の引き下げにより下回る場合を含む）と規定。

一定割合については、①4%＝昭和42年10月1日から55年9月30日までに承認された医薬品 ②5%＝55年10月1日以降に承認された医薬品であって、平成9年度改定又は10年度改定において長期収載医薬品の薬価改定ルールが適応されたもの ③6%＝55年10月1日以降に承認された医薬品であって②以外のものの三段階方式とすることを正式に伝えた。

厚生労働省は、このほど平成12年の薬事工業生産動態統計年報概要（薬効分類等）をまとめ、明らかにした。

それによると、同年の国内での医薬品生産金額は6兆1,826億円、対前年比1.7%減のマイナス成長となった。これを薬効分類別で見ると、年間1,000億円以上の薬効群（18薬効群）中で対前年比増産となったのは、増加率の高かった順に化学療法剤19.2%、血液・体液用薬11.5%、感覚器官用薬8.3%、泌尿生殖器官・肛門用薬7.4%、腫瘍用薬5.1%、ホルモン剤4.3%。減となった薬効群は外皮用薬15.9%、呼吸器官用薬15.0%、抗生物質製剤14.6%、体外診断用医薬品9.1%、滋養強壮薬5.1%、ビタミン剤4.0%などとなっている。

平成14年1月度医薬協理事会報告

1月度理事会が1月10日薬事協会会議室において開催されましたので、附議事項についてお知らせいたします。

出席者：理事・監事17名、委員会・事務局3名

I. 報告事項

1. 医療制度改革の動向について
2. オレンジブック総合版推進委員会報告について
3. 日薬連予算編成について
4. 平成13年度予算執行見込みについて
5. BEガイドライン懇談会について

II. その他

1. 平成14年度予算編成（国）について

平成14年1月 講演会及び祝賀会

理事会終了後、社団法人日本薬剤師会常務理事漆畑 稔氏並びにクレコンリサーチ&コンサルティング社長木村文治氏の両名をお招きし講演会を開催、医療制度改革大綱、薬価問題、医薬分業等々につきご説明をして戴いた。引き続き、新年祝賀会を催し、会長挨拶、厚生労働省池谷審査管理課長、岸本日薬連理事長、木戸製薬協理事長、八代日薬連保険薬価研究委員会委員長よりそれぞれご祝辞を戴いた後、井元常任理事の乾杯のご発声により開会。

和やかな雰囲気のうち、盛会裡に終了した。



初 詣

大蔵製薬株式会社

堀川 丈夫

京都に住んで7度目の正月を迎えた。

この地で有名な神社仏閣といえば枚挙にいとまがないが、私は上賀茂神社に惹かれる。

国宝となっている本殿を始め立ち並ぶ建物は周辺の境内を含め、「世界文化遺産」に登録された質素で清楚な神社である。

我々の先祖の素朴な生活が想起され、心が安らぐ。そこに惹かれる。

それで二、三年前から、自宅のある二条駅前から運動を兼ねて徒歩で参拝するようになった。片道1時間半、約6キロの行程である。天候が良ければ往復歩く事もある。

一昨年は除夜の鐘を聞きながら上賀茂神社に初詣をしようと出かけたが、残念ながら帰り道で雪まじりの雨にあい歩くのを諦めてタクシーで帰宅した。

どうしても、往復徒歩で初詣をしたくて昨年も紅白歌合戦が終わるのをきっかけに自宅を出た。行き交う車も人も昨年よりずっと多い。

そこ此処の寺で撞く除夜の鐘を聞きながら、堀川通りを上賀茂神社に向かって一人歩く。昼間に歩くのと違って深夜は目に入る風景は限られる。そのぶん心は内に向かう。満月が天空に冴え輝いていた。

一条戻り橋のあたりまで来ると大勢の人込みに出逢った。陰陽師安部清明を祀る清明神社に参詣する人々が境内を埋め尽くし歩道にまであふれているのであった。最近テレビや映画にもなり特に若い男女の関心を集めている。失業不安。空気、水、土地等の汚染。世界に広がる治安不安等々こうした社会で夢や理想を失わずに生きようとする彼らの悩みが此処に向かわせるのであろうか。数年前までは街の片隅にひっそりと忘れられた社であったのに。

薬業界も今年は医療制度、薬価制度、特にジェネリック医薬品については、

永年慣れ親しんだGEルール等の仕組みが大きく変わる。販売承認制度への移行やDMFの導入も控えている。我が業界にも大きな転機が来た。そんなことを歩きながら考えてみる。

北大路堀川の手前には千年余を経て今も世界各国で愛読されている「源氏物語」の作者、紫式部の顕彰碑と墓所とされる場所がある。日本人としてはただ一人ユネスコから「世界の偉人」に選ばれている。本物は何時の時代の人々にも感動を与えるのであろう。大通りを行き交う車の騒音を余所にそこは静かである。

さらに北上し御園橋をわたると上賀茂神社である。五、六軒でている屋台店の喧噪の前を通りぬけ人波にあわせ一の鳥居から二の鳥居に向かう。空気が凜と澄んで身が引き締まる。二の鳥居前には暖をとる参詣者のための焚き火が新年の空気を浄めるように暗い空に大きな炎を立ち昇らせていた。

手を清め朱色の桜門を入れて本殿の前に立つ。人に押されながらお賽銭を上げ、平凡ながら「世界平和」を心から祈念した。本殿脇で御神酒を頂き、勇壮な和太鼓の響きに新年幸多かれと全身を浸した。程なく演奏が終了し境内は静寂に還っていく。

相変わらず月は煌々として頭上にあり帰路に眺めた賀茂川は月の光を照らしてきらきらと揺らいで流れている。昨年は一国平和主義の日本も一人勝ちのアメリカもその国の在りようを問われた年であった。道すがら考えてきた課題の答えは簡単にはでないが、私は共生を基本に進める事が大切だと思う。しかし互いの切磋琢磨と、その結果は誰のせいでもなく自らの責任で在ることは当然である。

往復歩くという目的はとりあえず達成した今年の初詣であった。

次号は太田製薬(株)山本社長にお願いします。

活 動 案 内

<日誌>

1月9日	総務委員会総務部会	医薬協会議室
"	総務委員会広報部会	"
1月10日	常任理事会	東京プリンスホテル会議室
"	理事会	"
"	新年講演会・祝賀会	"
"	教育研修常任委員会	医薬協会議室
1月16日	オレンジブック総合版推進委員会	"
1月18日	薬事・安全委員会正副部会長会議	"
1月22日	流通適正化委員会正副委員長会議	"
1月29日	総務委員会広報部会	"
1月30日	オレンジブック総合版推進委員会	"

<今月の予定>

2月5日	薬価委員会第四分科会	医薬協会議室
2月6日	総務委員会総務部会	"
2月14日	関東ブロック会	薬事協会会議室
"	常任理事会	新大阪フシントンホテルプラザ会議室
"	教育研修常任委員会	医薬協会議室
2月15日	オレンジブック総合版推進委員会	"
2月19日	流通適正化委員会	"
"	ジェネリック研究委員会	薬事協会会議室
2月22日	教育研修連絡会	"
2月26日	関西ブロック会	ライオンズホテル大阪会議室
2月27日	総務委員会広報部会	医薬協会議室
"	薬事・安全委員会正副部会長会議	"

| 編 | 集 | 後 | 記 |

☆少子高齢化が進む中で、医療保険制度に対する抜本的な議論はこれまでになく多くの場で検討されて、その着地点を見つけるのに迷走しながら漸く、此処まで辿り着いたことが伺える。これで列車は制度改革と言う荷物の一部を4月と言う駅に降ろして走り出すがしかし、問題と言われる荷物は降ろさず積んだまま出発するとのことで、後は「必要な時」まで降ろさないことにしたとアナウンスが聞こえてきた。「必要な時」とは何時なのか、すぐ先の駅なのか、遙か先にある駅なのか早く知らせてほしいと思う。

診療報酬も薬価も引き下げになりその反動をどのように受け止めるか、今までとは違った改定の年と言える。何かをやろうとすれば何処かが「わりを食う」といったことをよく聞くが、公平に負担をすることが大事であってうまく働いてくれることを願うしかない。

それにしても、今度ばかりはどのような展開に進むのか見えてこないのが正直なところであり、公的保険と公定価格、一方では市場原理が働きバランスがどう保たれるのか正念場を迎えることになる。カルテル疑惑が問題となり厳しい判断が下されたが、少なからず他の産業界からは常に不正が行われておる業界と見えたとか。これを聞いて反論はしても力は入らなかった。しかし、背景にあるものは何なのか解明しないと繰り返し世間から批判を受けることにも繋がり、もっと大きな大過を背負うことになる。

☆去年の暮れK医院の待合室でのひとコマである。

近所のお年寄りが「永く生き過ぎた」息子や嫁にすまないと繰り返えし言う、「何を言うてんのや」と言ったものの、考えればお医者さんの待合いで聞くのも変な話しではあった。

一人が「早くあの世へ行きたいわ、先に行った爺さんが良い場所を取ってくれておるのに」今度は隣が、また「婆さんは先に行きよって、わしゃ損したわ」。そこで何故お医者さんに来たのと聞きたいがそんな事は言えない。

「何も急いであの世に行かなくても、大きな顔して息子や嫁に世話をかければいい、今、結構な暮らしが出来るのも爺さんと婆さんが築いたモノなんやから遠慮する事ないで」と、言ってやったが、その時、看護婦さんが「次の方どうぞ」と呼んでくれた。

今の年寄りには皆こんな考えで老いて行くのかと何か複雑な思いが込み上げてくるのを感じた。美味しい物を食べさせるよりも、話し相手になってやるのが一番大切な薬と思う。今の世の中、暮らしにくくなったと話しを合わせ、その場に居合わせた人生の先輩たちに味方をして、呼ばれるまで野菜の作り方を教わることにした。

(Y. K)